

プログラム番号	06057
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	早稲田大学 大学院アジア太平洋研究科		
②学長名	白井 克彦		
③所在地	〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104 (早稲田大学) 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-21-1 (大学院アジア太平洋研究科)		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	大学院アジア太平洋研究科 専任職員	
	担当者氏名	尾内 一美	e-mailアドレス kazumis@waseda.jp
	電話・FAX番号	(Tel) +81-3-5286-3877 (Fax) +81-3-5272-4533	
⑤ホームページ URL	www.wiaps.waseda.ac.jp		
⑥大学院在学留学生数	277人 (うち、国費留学生 64人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	『アジアの地域統合・地域間協力を支える指導者養成プログラム』
②プログラムの形態	修士課程+博士後期課程 (2+3年間)
③実施研究科・専攻	大学院アジア太平洋研究科 国際関係学専攻
	(所在地) 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-21-1早大西早稲田ビル7階
④連携大学・研究科・専攻名	なし
⑤受入れ学生数	20人(うち研究留学生優先配置人数: 修士課程6人 博士後期課程4人) (うち私費留学生: 修士課程 4人、博士後期課程 1人) (うち日本人学生数: 修士課程 4人、博士後期課程 1人)
⑥担当教員数	合計 20人 (うち専任: 20人、兼任: 人、非常勤: 人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 アジア太平洋研究科・研究科長
	研究科長名 教授 天児 慧 実施代表者名 教授 黒田 一雄

【3. プログラムの内容】

1. 開設の趣旨

(1) 進展するアジアの地域統合・地域協力と高等教育

アジアの地域統合・地域協力、特に「東アジア共同体」の形成が、政府間協議の場で具体性をもって議論され始めている。2005年12月には、クアラルンプールで、東南アジア諸国連合加盟国10カ国・日中韓3カ国のいわゆるASEAN+3に、インド・オーストラリア・ニュージーランドが加わり、初めての「東アジアサミット」が開催され、「東アジア共同体」形成への長期的な道程が議論された。アジアの地域統合は、この地域で急速に進む経済面での一体化を背景に、安定した新たな秩序の構築を目指して模索され、各国にとって、この地域の経済的繁栄と平和を支えていくための主要な国際的政治課題の一つになりつつある。

ヨーロッパでは、1986年よりEC/EUの地域統合を人材育成の面から促進するために、「エラスムス計画」と銘打ち、学生や教職員の域内交流の促進、各分野におけるヨーロッパ型カリキュラムの開発を行っている。その目標とするところは、ヨーロッパ地域の経済発展のための人的資源の育成という経済的な側面と、特に若い世代の交流を促進することで、域内の相互理解と「ヨーロッパ市民」意識を形成・涵養するという文化的な側面があり、これまでその双方とも相当の成果をおさめてきている。アジアにおいても、域内での高度な人材育成や国際教育交流・協力を、「東アジア共同体」の議論と連動させて促進していくことは、「アジア市民」意識を醸成し、平和で豊かなアジアの共同体を創造していくための大切な一歩になるだろう。

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科「アジア地域統合・地域協力を支える指導者養成プログラム」は、以上のようなビジョンの下、アジア各国の各分野における地域統合と地域協力を政策的及び学術的に推進できる高度な人材を養成することを目的としている。

(2) アジアの地域統合・地域協力と早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

早稲田大学は日本の近代化初期に「東西文明の調和」を建学の理念の一つとして設立され、日本と世界をつなぐ研究教育を重視してきた伝統を有している。現在も、「アジア太平洋地域における知の共創」をスローガンに、世界の大学と競争し協調しあえる大学として発展することを目指して、アジアの主要大学との連携を進め、積極的な海外展開に努めている。

大学院アジア太平洋研究科国際関係学専攻は、このような早稲田大学の国際化・アジア化という目標を達するため、大学全体の牽引役として1998年4月に誕生した、本学最初の独立大学院である。その基本理念は「アジア太平洋を中心とする地域の歴史、政治、経済、産業、経営、社会、文化および国際間の諸問題を、グローバルかつ地域的な観点から学際的に研究」し、「躍動するアジア太平洋地域を理解し、この地域の未来を担う専門家、研究者を育てていくこと」にある。個々の学問的領域の自立性を基本としつつ、学外諸アクターとの連携を基とした研究・教育活動の革新を行うことにより、アジア太平洋地域の将来展望を戦略的に予測し、これまで累積した諸事象の記録を客観的に省察し問題解決の糸口を導出することのできる、実践的研究者および高度専門職業人の育成を進め、早稲田大学におけるアジア連携のハブ的機能を果たしてきた。

具体的には、「アジアの地域統合と地域協力」を主要な研究テーマとする21世紀COEプログラム「現代アジア学の創生」や文部科学省高度化推進事業「アジアの相互信頼醸成と共有できる『アジア』像創造のための日中韓ASEAN研究者による共同研究」に、専任教員の過半が参加し、また、この分野で数多くの大型科学研究費プロジェクトを受託し、アジア地域統合・地域協力研究において、実績を積み上げてきた。また、こうした研究プロジェクトの実施に当たって、アジアの主要大学の研究者と連携し、共同の現地調査やシンポジウム・セミナー等への招聘を通じて、着実にアジアとの研究者交流を拡大させてきた。このような過程を通じて、本研究科は、この分野における、アジアにおける大学ネットワークの中核的存在として認知されてきている。

他方、教育面に関しても、本研究科は、英語と日本語の双方による学位取得が可能な日本で随一の国際関係学関連の大学院として、1998年の設立以来、英語による授業科目の充実、日英両語での個別指導体制の強化に努めてきた。その結果、十分な英語運用能力を有する日本人学生を育成するとともに、世界45カ国から多数の留学生を受け入れてきた（学生の半数以上が留学生）。また、2002年に本学と北京大学国際関係学院との協定に基づいて開始された「博士課程学生共同育成事業」でも中心的な役割を担っている。

「アジアの地域統合・地域間協力を支える指導者養成プログラム」は、以上のような早稲田大学とアジア太平洋研究科が築いてきた、アジアの地域統合・地域協力に関する研究成果、日英両語による充実した教育プログラムと留学生受け入れの実績、アジア主要大学や国際機関との緊密な連携関係を活用して、アジアの地域統合・地域協力に貢献できる専門知識と、この地域に豊かな人的ネットワークを有する専門家・研究者を育成することを目指している。

2. プログラム内容

「アジア地域統合・地域協力を支える指導者養成プログラム」は、地域統合・地域協力を政治・経済・歴史・社会・文化・教育等の様々な分野から研究し、各国政府や国際機関の政策決定過程に積極的に関与していくことのできる指導的研究者を養成することを目的としている。

アジア太平洋研究科では、学生は一つの専門領域に中心を置きながら、他の領域の科目を履修することにより、躍動するアジア太平洋地域を多様な角度から観察・分析することのできる専門性を体系的に習得できるよう工夫されてきた。本プログラムにおいても、各学生は、以下のような既存のプロジェクト研究（研究指導演習の単位）において、専門知識を習得しながら、それぞれの分野から「アジアの地域統合・地域協力」に学問的に接近し、修士論文・博士論文を執筆する。本プログラムは、プロジェクト研究を横断する形で、アジアの地域統合・地域協力に関するテーマを様々な観点から学習・研究でき、地域統合・地域協力における学生のキャリアデザインに合わせた科目選択と論文執筆が可能になるような構成とする。

修士課程プロジェクト研究課題

現代中国の国際関係
アジアの中の日本
日本経済とアジア
東アジアとアメリカ
東南アジアの政治社会と文化
東アジア地域の安全保障と国際関係
APEC 地域の国際協力と法
アジア太平洋地域の国際関係
アジア太平洋地域の国際交流
華人経済とアジア
経済開発とインフラ
アジア太平洋における国際経済関係
発展途上国における平和・人権と社会開発
国際援助協力（開発人類学）
発展途上国における教育開発と国際協力
グローバリゼーションとアジアの文化変容
アジア太平洋における社会生活
環境と持続可能な発展

博士後期課程プロジェクト研究課題

現代中国論
日本・アジア関係史
日本・アジアの経済発展
日米関係史、国際関係史
東南アジア地域研究
東アジア地域の安全保障と国際関係
国際機構と国際協力
アジア太平洋地域の国際関係
アジア太平洋地域の国際協力研究
華人経済とアジア経済
経済発展とインフラ
アジア太平洋における国際経済関係
国際援助協力（開発人類学）
比較国際教育政策
比較の視点からみたアジア地域の文化変容
現代日本社会の研究
環境と持続可能な発展

* プロジェクト研究課題は 2007 年 4 月設置予定のものとなります。2008 年度以降変更される可能性がありますので、ホームページ(www.wiaps.waseda.ac.jp)にてご確認ください。

また、本研究科では、1998 年の修士課程発足以来、教員、学生、学外アクターの三者が研究プロジェクトを通じて協働する問題発見・解決型の研究・教育手法として「トライアングル・メソッド」を導入してきた。事実これまでに、インターンシップ制度や海外提携大学との交換留学制度の活用に加えて、プロジェクト研究ごとに教員と学生が共同で実施する国外諸機関との共同調査・研究や、外国人学生を主対象とする日本国内でのフィールド調査などを積極的に展開してきた。本プログラムにおいても、地域統合・地域協力に関連する国際機関や政府機関・研究機関におけるインターンシップを奨励する。

3. 使用言語

授業・論文執筆は、英語もしくは日本語で行う。（地域統合・地域協力に貢献するためには、英語とアジアの言語を使い、問題発見＝解決型のプロジェクトをマネジメントする能力が必須となるが、こうしたニーズに積極的に応えるため、本プログラム参加学生には、本学に豊富に用意されている、日本語・英語・中国語・インドネシア語等のアジア言語の学習機会を積極的に活用することが期待されている。）

＜出願先・問い合わせ＞

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-21-1早大西早稲田ビル7階

早稲田大学アジア太平洋研究科 アドミッションズ・オフィス

「アジアの地域統合・地域間協力を支える指導者養成プログラム」係

電話：+81-3-5286-3877 Fax：+81-3-5272-4533 Email：gsaps@list.waseda.jp